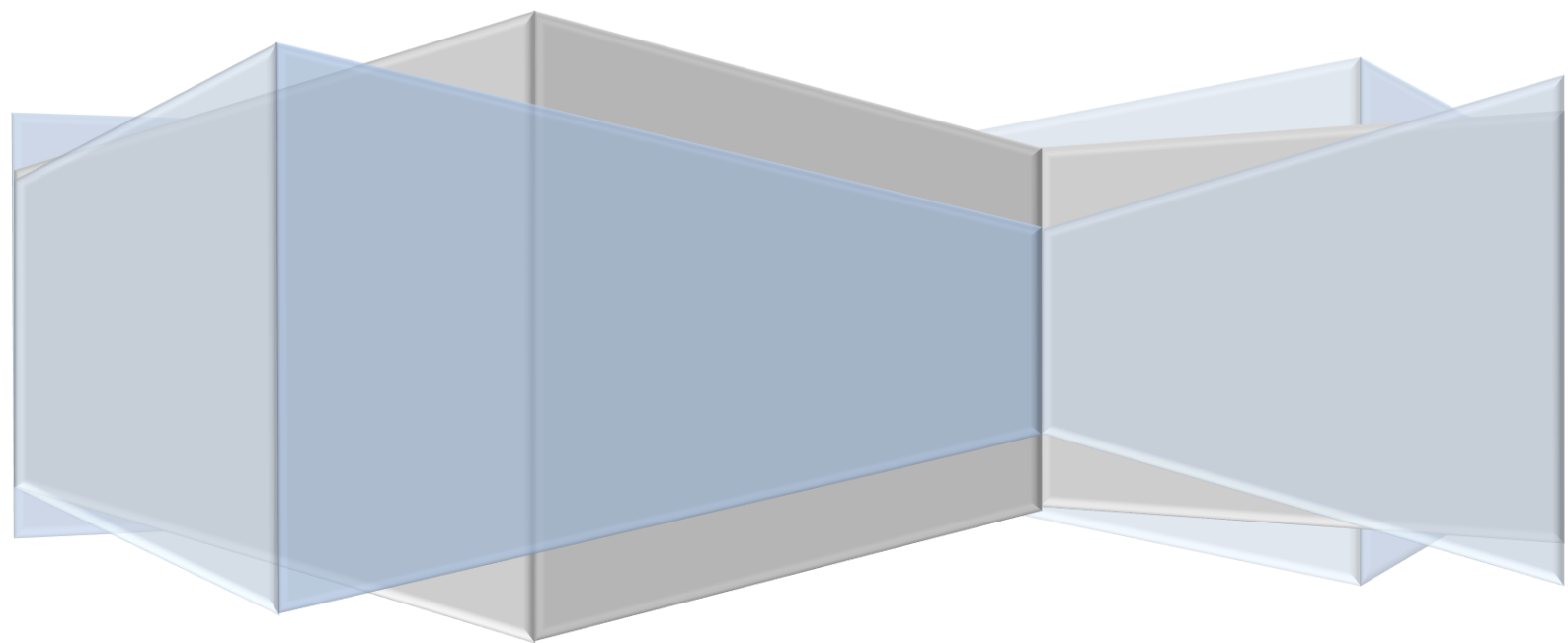


九州大学山岳部

2014年夏合宿事故報告

穂高岳吊り尾根において

中本裕也・富家政大



目次

1. 事故の概要
2. 事故の状況
3. 計画書（行動計画、参加者名簿、装備表、遭難対策）
4. 反省、今後に向けて
5. トレーニングについて

1.事故の概要

日時：2014年8月19日（火）午前2時40分頃
場所：穂高岳、吊り尾根、最低コル付近（長野県）
遭難者：山崎史也（19歳、1年生、理学部数学科）
事故型：滑落（腰椎横突起骨折）

8月18日（月）・時系列降順

5時 起床
6時 朝食
6時40分 出発
8時20分 前穂北尾根5.6のコル
9時 4.5のコル
12時 3.4のコル
16時 2峰
18時20分 前穂高岳山頂
18時50分 紀美子平

起床時に雨が降っていた為、予定よりも遅れての出発。本日も沈殿かと思ったが天候が回復の兆しを見せた。明日以降の天候は再び思わしくない予報であったので、天気が良いうちにと思い、定着で1番の目標であった前穂北尾根に向けて出発した。3年生2人、2年生3人、1年生3人の8人パーティ、合宿参加者全員である。アイゼン、ヘルメット、ハーネスを装着し雪渓を登る。5峰はノーザイル、4峰からはコンテ、スタカットでザイルを出して登攀。事前の調査では、4峰もザイルは必要ないとのことであったが、先行のパーティが出していたこと、1年生の安全を期するために念のために出した。しかしながら、北尾根は我々の事前の計画よりも時間がかかった。山頂に着いた頃には18時を回り日も落ちてこれ以上の山行は危険だと判断し、フォーストビバークをする。ツェルトと非常缶からエマージェンシーシートを取り出し寒さ風をしのぐ。19時から30分ほど雨が降るがそれ以降は雨もやみ風も穏やか。防寒着やろうそくなどを用いて体を温めるものの、1年生は防寒着を持ってきておらず強く寒さを訴える。引尻には中本よりダウンジャケットを貸す。あまりに寒そうにしており、低体温症の症状を訴える者もいたために、出発時間を3時から2時からに早めることに決定。それぞれ非常食をとったが、山崎は食事をとらず。就寝時も、断続的に雨が降っていたため、かなり寒かった。

1 装備表を参照のこと

8月19日(火)・時系列降順

- 2時 出発
- 2時40分 事故発生
- 3時25分 長野県警に通報(第一報)
- 4時51分 滑落場所判明。中本が山崎の元まで降りる
- 6時 県警救助隊4名現着
- 8時 救助隊応援隊現着
- 9時 穂高岳山荘へ移動
- 10時45分 奥穂高岳山頂
- 11時30分 穂高岳山荘
- 13時 山崎へりに収容成功
- 14時 潤沢ヒュッテ

村松、山崎、富家、引尻、中本、田中、松村、永田
←村松を先頭として、奥穂高岳へ向かっていた。

2時に紀美子平を発ち奥穂方面に向けて吊り尾根を歩く。薄くガスがかかっており視程は5メートルくらい。出発から30分ほど最低のコル付近の段差につまずき、山崎滑落。昨夜の雨で濡れていたせいか、疲れのせいか、はたまた慢心か、山崎は足を挫いたようにバランスを崩し、谷側にゆっくりごろごろと落ちていった。先頭から順に、村松・山崎・富家・引尻…といった様に、一年生を上級生で挟んでいた。山崎に向かって声をかけると返答あり。一年生は事故当時、全員ヘルメット着用していたことが、不幸中の幸いだったと言える。1,2年生は山崎への声掛けを続けるように指示し、3年生は穂高岳山荘に救助を要請しに向かうことにする。ありがたいことに最低のコルの分岐点辺りから奥穂方面に少し歩いたあたりにて電波が入ったので、富家の携帯から県警に通報(第一報)。以降、田中の携帯を借り受け、長野県警地域課当直の近藤氏の指示を仰ぐ。近藤氏が、隊を分けるか全員その場に留まるかはそちらの判断に任せるとのことだったため、現場待機の3年生二人以外は、上高地まで岳沢経由で下山させた。日が少しさしてくると山崎の滑落場所が判明した。傾斜が比較的緩やかなガレ場をたどり、中本が山崎の元まで降りる。穂高岳山荘より、先行救助隊4名が到着し、救助作業開始。山崎は落石の危険のない安全地帯に移動できたので、あとはへりでの回収作業だけだからテン場に戻るようにとの指示を受け3年生二名はテント地に向けて戻る。

8月20日(水)・時系列降順

4時 起床

5時30分 涸沢ヒュッテ出発

9時 上高地

10時 中本事故現場へ

13時40分 中本事故現場着。救助隊がデポした山崎のザックを回収

17時30分 中本、上高地戻る

2.事故現場の状況

・現場写真



午前5時04分。山崎にツェルトを被せ、中本が付き添っている。

岳沢より風が吹き上げる。
救助作業時には、絶えず霧状の雲
が下から吹き上げていた為、作業
は難航していた。



<http://www.japanesealps.net/north/hodakadake/turione.html> より引用。

この見きれている右端の部分の段差より滑落。前ページの写真を見た方向が矢印。

事故現場



午前 6 時 28 分。長野県警の救助隊員による救助作業中。まだ中本は下にいる。